2026 年 11 月 26 日

各位

会 社 名　シ ン バ イ オ 製 薬 株 式 会 社
代 表 者 名　代表取締役社長兼 CEO　吉田 文紀
（コード番号：4582）
問 合 せ 先　IR 室（TEL. 03-5472-1125）

ブリンシドホビル（BCV）、慢性疾患への適応拡大に向け
皮下注・自己注射の新剤型の特許出願

シンバイオ製薬株式会社（本社：東京都港区、以下「シンバイオ製薬」）は、このたび、皮下投与するためのブリンシドホビル（BCV）の新剤型について、日本国特許庁に特許出願したことをお知らせいたします。

本新剤型は、BCV を封入したリポソームの表面にポリエチレングリコール（以下「PEG」）を配置した PEG リポソームに関するものです。従来の静脈内投与用 BCV と比較して「徐放性（成分を徐々に放出する性質）」を有しており、投与回数の削減と皮下注射による投与を可能にすることが期待されます。慢性疾患において患者さんご自身が投与する「自己注射」が可能となることで、医療機関での静脈内投与に伴う患者さんの負担軽減と、QOL（生活の質）の向上に寄与することが期待されます。

経口剤



対象：天然痘、エムポックスなどオルソポックスウイルス類

・天然痘を対象に米国で承認済
・米国国防総省で対バイオテロ用医薬品として備蓄済み

静脈注射剤
病院での点滴が必要



対象：急性疾患

・造血幹細胞移植後のアデノウイルス感染症を対象に英国で承認申請準備中、欧州および米国で第 3 相試験を実施中
・進行性多巣性白質脳症（PML）を対象に米国国立衛生研究所が第 2 相試験実施中

今回特許出願の新剤型
皮下注射剤
自己注射が可能



対象：**慢性疾患**

・「PEGリポソーム」技術を活用した徐放性の性質を持っている
・自己注射により通院の負担軽減が可能となる

二本鎖DNAウイルスに関連する自己免疫疾患、脳神経変性疾患、がんなどの慢性疾患では、長期にわたる治療が求められる場合があります。今回の徐放性皮下注製剤は、これら慢性疾患の患者さんに対し、自宅での自己管理という新たな治療選択肢を提供するものです。当社は、急性疾患から慢性疾患へと適応症を拡大することで、事業基盤をより強固にするものと考えています。今後、特許協力条約（PCT）に基づく国際出願を含め、海外における特許出願を進めてまいります。

代表取締役社長兼CEO 吉田文紀のコメントです。「今回の徐放効果を有するPEGリポソームを用いたBCVの新剤型は、慢性疾患領域における事業展開を可能にするものです。引き続き、研究開発と知的財産基盤の強化を着実に進めてまいります。」

本件による2026年12月期の連結業績予想への影響はありません。

【特許出願の概要】
・ 出願人：シンバイオ製薬株式会社
・ 出願番号：特願2026-266085
・ 出願日：2026年11月25日

以上

【注記：本発明の概要と技術的特徴】

本発明は、シドフォビルの脂質結合体であるブリンシドホビルを、独自の設計による PEGリポソーム製剤として構築したものです。主な特徴は以下の通りです。

・ 優れた製剤安定性： 極めて高い薬物保持率を実現。長期間の保存においても薬剤の漏出、結晶化、および析出を抑え、製剤構造を安定的に維持します。
・ 曝露量の増大と効率的な移行： 薬剤の血中滞留性が大幅に延長されることにより、単独投与と比較して生体内での曝露量が増大し、標的組織への効率的な移行を可能にします。
・ 二相性の徐放プロファイル： 生理学的環境下において、投与初期の放出に続いて緩徐かつ持続的に薬剤を放出する特性を持ち、持続的な薬効が期待できます。
・ 良好な忍容性： 投与部位における局所忍容性が高く、安全に配慮した新型剤型として、患者さんの自己管理を支えます。

シンバイオ製薬について：３本の治療領域を柱としたBCVの事業戦略
シンバイオ製薬は 2019 年９月、ブリンシドホビル（BCV）のグローバルライセンスを取得して以来、３つの治療領域（二本鎖 DNA ウイルス感染症、固形がん、神経変性疾患）において、そのポテンシャルを掘り起こすことを目的として各治療領域の世界最高峰の研究機関と共同研究を進めてきました。それぞれ、造血幹細胞移植後アデノウイルス感染症、進行性多巣性白質脳症（PML）、悪性脳腫瘍（グリオブラストーマ）、頭頸部がん、EBV 関連胃がんを中心に経営資源を集中して開発を進め、グローバルに事業展開をすることによりBCVの事業価値の最大化を目指しています。